

平成28年度第2回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成28年10月27日（木）午後6時30分～午後8時00分
2. 場 所 根室市役所 3階 大会議室
3. 出席者 【市政モニター】 10名

【市 側】 4名

総務部長、総務課長、広報広聴主査、広報広聴担当

4. 今回の会議開催方法について（事務局より説明）

第一回会議で出された意見をもとに、事務局でテーマを「活力あるまちをつくるために必要な取組み」、「安心して暮らせるまちをつくるために必要な取組み」、「市民が知らない根室の魅力を発信するために必要な取組み」の三つに絞らせていただいた。本日は、それぞれのテーマ別に、市としてどういったことに取り組みればよいか具体的な意見をいただきたい。個人の意見ではなく、市政モニター会議全体の意見として取りまとめたいと考えているので、モニターの皆さん同士で意見交換をしていただき、色々な意見を出していただきたい。本日はいただいた意見は事務局で取りまとめ、次回会議の前に、提言書の案という形でお示ししたいと考えている。

5. 以下、会議詳細

◎座長

前回に引き続き、座長を務めさせていただき、よろしくお願ひしたい。それでは、早速それぞれのテーマごとにご意見をいただきたい。

○モニター

活力あるまちを作るために、前回の会議でも少し話をしたが、オートキャンプ場を整備することも一つの案だと思う。

良くテレビで取り上げられている活力あるまち・人気のあるまち・住みたいまちの共通点は、公共機関、商店街、医療・福祉などが充実しているところだと思う。根室に関しては、どれも不安を抱えている。そのため、市民からは「根室はもうダメだ」という声が出ているが、このままでは良くないと思っている。そういった観点から皆さんと協議していきたい。

はじめから絶対無理とってしまっは終わる話だが、将来的に飛行場の建設や、新幹線の延伸等を考えていかないと商業の発展なども見込めないし、さらに人口が減っていくのではないだろうか。

それをどうするか民間のアイデアでは難しい。ただ、できる・できないで話してしまえば将来的な展望も期待できないので、そうした大きなものも考えていかなければならないのではと思う。

○モニター

前回の会議は欠席したが、事前にいただいた資料を見て、議論の方向性のようなものが理解でき、もっともだと思った。しかし、これまでも同じような議論がされてきており、今回の会議は一步進んで、具体的に施設なら施設といったように指定して議論したほうが、論議が深まるのではないかと考えている。

私が一番問題だと思っているのは、産婦人科が無いことである。そこが人口減少を招く大きな原因の1つである。安心安全の確保がされていないために若い女性が定着せず、子どもを産もうとしない。医師の確保や医療職員の確保が重要である。具体的には、新しくできる新設高校に福祉医療関係の専門科目をつくれればよいのではないかと考えている。現状、医療関係の専門学校に進学する場合、独学で勉強するしかないが、環境整備をすることにより、医療従事者の確保につながるのではないかと考えている。

◎座長

高校に医療分野や専門学科を作るという意見だが、個人的には斬新でよいと思う。

○モニター

すでに新設校高校の学科は決まってしまったが、意見の出た医療・福祉以外にも水産科・酪農科・観光科・歴史科などの専門科があってもよかったのではと思う。現在は、みんな同じ学科に入り、進学に向けて枝分かれしていく。それなら、中学から高校進学の際に目指した道に進むことができるようにすれば、根室の高校の特色が出せるのではないかと考える。

産業については根室に北海道一の市場を作ってはどうか。せつかく根室には新鮮な海産物があるのにそれを活かしていない。釧路や函館の市場には全国各地から人が訪れている。根室に魅力的なものを作らないと根室に来る人がいなくなる。函館の朝市は有名で、多くの人を訪れるが、根室を訪れる人は少ない。函館は、加工品は多いが生の魚は根室より水揚げされていない。根室で獲れたイカの90%は夜中のうちに函館に送られている。売れない根室で売るより売れる函館で売ったほうがいいのかもわからないが、何かがおかしいと感じている。

観光についてだが、春国岱の木道が壊れたままになっている。北海道管轄の部分は直っているが、根室市管轄の部分は直っていない。観光のための観光ではなく、自然を守るための観光になっているのではないかと考える。自然を保護することが大切なのもわかるが、我々が食べていくことも大切である。共存共栄を考えてやっていかなくてはならない。

「安心して子どもが産めない根室に若い人は来ない。」と若い女性からよく言われる。町である別海で出産できるのに、市である根室ではなぜ出産できないのか。専門家に言わせれば当たり前なのかもしれないが、市民からすれば単純におかしい。転勤族も奥さんを実家においてきたほうが良いと言って連れてこない。それは安心安全ではないから。これが現実の声である。産婦人科医の確保に向けて取り組んでいることは知っているが、できないならできない理由を市民に知らせるべきだ。

○モニター

まず、産婦人科の問題だが、別海には矢白別があり、国からの補助等が大きいし、医師確保にも多くのお金をかけていると思う。根室とは財政面で違いがある。

次に朝市についてだが、自分は反対だ。建物の建設費だけでも莫大なお金がかかるし、維持管理にも費用がかかる。函館や釧路は確かに朝市・市場が有名で人は集まっているかもしれないが、函館も釧路も地理的に中間地点にある。根室は一番端で人が集まりにくい。単純にそういう施設があればいいと思うが、事はそんなに単純ではない。建設することはとても危険だと思う。

自分もイカを獲っているが、水揚げしたイカはすぐに函館に送る。なぜかといったら、根室の水産加工業者は、サケ・マスやサンマがあり、イカなどは相手にしなくても商売として成り立ってきたためだ。確かにイカは函館に、タコは留萌に送られることが多いのが現実である。

先ほど、「根室はもうダメだ」という声が多いという意見があったが、自分はそう思わない。これからだと思う。自分はネイチャークルーズで野鳥観察の手伝いをしているが、どんどん外国人が増えている。イギリス・アメリカ・オーストラリアなど遠い地域からわざわざ「この鳥が見たい」とやってくる。世界中約9,000羽いる鳥の中で、8,500種類を見たことのあるという方が、「初めてこの鳥を見た。」と満足して帰っていく。北海道、日本クラスではなく世界に打って出る素材はあるが、それをどう生かすかが重要である。今後の課題は語学力だと考えている。現在、英語を話せないガイドが多数である。日本人相手ならいろいろ話せるが、外人相手だと片言になってしまい言いたいことが表現できない。世界遺産の知床でさえまだ、英語を話せるガイドが十分ではない。根室が、英語力、コミュニケーション力の強化に取り組みれば、先取りできると思う。世界的に見ても秀でたものが根室にはあるのだから、箱物を作るよりも自然を活かしたほうが良いと思う。

○モニター

自分もどちらかといえば今の意見に賛成である。ハードは作るのにも、お金がかかるし、さらにメンテナンスにも多くの費用がかかる。それを補えるだけの売上をあげることは今の時代、厳しいと思う。

それよりもマンパワーを増やすべきだと考えている。市民一人ひとりの意識を高め、世界レベルのガイドを養成して、誰が来ても自信を持って根室の野鳥や自然の魅力を世界各国の人々にアピールできるような人材を育てるべきである。

そのためにも教育や文化に力を注ぐべきだと思う。教育においては高校までは根室でも全国レベルの大学へ進学できるような教育を受けられるようにしてほしい。根室の良さをしっかりと認識してもらうことで、大学進学で根室を離れたとしても、外に出て大きく成長し、また根室に戻ってきてくれれば良いと思う。

現在活動中の子どもを対象としたリーダー研修の内容強化をしてはどうか。根室には自然に詳しいレンジャーの方も大勢いるので、子どもレンジャーのように根室の自然に小さいころから親しむことのできるような仕組みを作ることができれば、レンジャーとしてもスキルアップしながら、根室から離れたくないと思える子どもが増えていくのではないかな。10年、20年先の話かもしれないが、一度根室を離れても、やがては根室に戻ってきて、将来のまちづくりに貢献する人材が育ってくれば、面白くなると思う。

○モニター

小さいころから根室についての教育をしっかりとやれば、一旦根室を離れたとしても愛着がわいて戻ってくる可能性がある。今現在の人口流出については歯止めが利かないが、10～20年後先にその成果が実り、若者が定着することは十分考えられると思う。一方で、高齢者の人口流出は深刻だ。要因である医療福祉分野がしっかりと利かないと歯止めが利かない。若年層と高齢層の人口流出はそれぞれ要因が違うので難しい問題だ。

○モニター

高齢者の人口流出は子どもたちが地方で生活基盤ができたことから、親をそこに呼ぶことが大きな要因である。子どもたちが根室に定着するシステムを考えていくことが先決だ。高齢者の人口流出より、若年層の流出が一番危険だ。現在27,000人の人口はいずれ20,000人に

まで減少すると統計が出ている。ゆっくりはしてはられない。10～20年後の話も確かに必要であるが、今現在、何をするかを早急にかつ現実的に考えていくべきだ。

○モニター

教員と道庁に勤務している子どもがいるが、根室に異動希望をする人が全然いなく、根室に希望を出せば明日にでも行けるほどだという。それだけ根室は魅力がないということだと思う。

5人いる子ども達を皆大学に進学させることができたが、誰一人として地元に戻ってくると言わず、長女に限っては出産ができないので親の方から帰ってくると言った。地元の人でも魅力を感じていないのに地方の人が根室に住みたいと思うのは稀だと思う。

○モニター

先ほど、別海はお金があるという話があったが、お金がそんなにももらえるなら根室はなぜ自衛隊を誘致しないのか。そうした取り組みこそが今、必要なのではないか。10年、20年、50年先の夢も大事ではあるが、自分は高齢者であり、今現実の我々がやりたいこと、すぐに行えることを具体化して提案していかないと厳しいと思う。10年後になったら、10年後の人間が新しい夢を語ってくれればいいと思う。

○モニター

根室の魅力は何か、なにが欠点なのかなど、根室に対する認識や知識が不足しているのではないか。認識や知識を深めるためには、博物館を作るのが一番ではないだろうか。現在でも資料館はあるが、施設が不十分なため博物館としては位置づけられていないし、あまり活用されていない。根室の歴史や自然、漁業や酪農等の産業、文化などすべてわかるような充実した博物館が必要である。根室にある専門機関としては水産研究所があるが、大学などの専門的に教育・研究する施設がないので、博物館が一つの研究施設となって、根室のさまざまな問題に取り組み、市民に還元されるようになればいいと考えている。

観光の面から、生活文化の面からも博物館の建設が必要だと思う。2億や3億でできるものではなく10億、20億かかるようなインパクトのある建物を作るべきである。根室には素材がたくさんある。市内で古くから活動している考古学者の方が市に寄贈した資料や図書館に展示されている飯田三郎氏の資料など、分野を問わずすべてを集約できるくらいの大規模な博物館を建設すべきだ。また、現在は自然の学芸員と歴史の学芸員の二人体制でやっているが、生活文化(文学や絵画など)を専門にしている学芸員がいないので、学芸員の増員が必要ではないか。夢がないのに計画は立たない。建設資金にはふるさと納税の一部を積み立てて活用できないものか。若者に限らず、高齢者にとっても学べるような博物館であってほしい。

また、根室は管内の中でも運動施設の整備が遅れている。中標津の新体育館は素晴らしく、いずれオリンピックに出るような外国選手が練習に訪れるかもしれないし、スポーツ団体の誘致に繋がる。根室では、そのような面が遅れており、他地域と引けをとらない施設は文化会館くらいである。別海においても、公認のマラソンコースがあり、スポーツ施設が整備されている。根室では全道規模の競技を開催できる施設がない。野球場は石ころが転がり惨憺たるもので、基本的な整備がされていないのが現状だ。しっかりと整備された施設の運営を望む。

観光事業においては水産業も大事だが、農業分野にも目をむけてはどうか。厚床にある民間の牧場はとてもいい例だ。フットパスや魅力的なレストランがあり、ウサギやブタなどのふれあい施設、牛の乳搾りやバターを作ることができるなど、子どもから大人まで楽しめる施設になっており、非常に良い取り組みだと思う。水産分野では、地方の修学旅行生に対してセリ見学生産現場の見学や、漁業者宅に民泊する事業を行っているので、もっと修学旅行の誘致を行ってはどうか。

○モニター

根室の自然を生かして観光客を呼ぶのがよいと思う。先ほども意見があったが、外国人から注目を浴びている。博物館の建設などはかなり昔から出ている意見であるが、とにかく今はやっつけられるものから、お金をかけずにできる取り組みを考えると、自然を使って観光客を呼び込んで活性化させていかななくてはならないと思う。

夏場は、どうしても函館や富良野など道内の観光地に負けてしまっている。根室の冬場の良さを活かすことも必要ではないか。氷下待ち網漁などは、オオワシなどの写真を撮るために国内はもとより海外からも写真を撮りに多くの人々が訪れている。それをもっと活かしていくために、ガイドツアーの参加者に補助金を出すなどの手法で観光客を呼ぶのもひとつの手段ではないか。

○モニター

若い世代は子育てや自分たちの生活で時間が取れないが、最近の定年を迎えた60歳を超えた人は若い人ばかりである。そうした人たちを対象に、成人学校などで、ボランティアガイドを育成する取り組みが必要ではないか。「春国岱」や「チャシ」に特化した専門のボランティアガイドの育成し、根室の魅力を伝える取り組みをしてはどうか。

○モニター

自分も介護を経験したことがあるが、ケアマネージャーが不足していると思っており、そういう人を育てていく場所として、学校などの空き施設を使い、ケアマネージャー育成に取り組んではどうか。

根室の魅力を伝える取り組みとしては、先ほども意見が出ていたが、ガイドをやっている方などが、子ども達に授業の中で、根室十景などを素材にして活用して、伝えていってはどうか。

○モニター

医療の問題があげられていたが、医療にお金をかけるのであれば、逆に医療に頼らず生きていけるように健康づくりを進めていくといいのではと思う。埼玉県坂戸市では、『さかど葉酸プロジェクト』というものがあり、地場産のほうれん草を食べて葉酸値を上げ、病院にかかる回数を少なくしようというものだが、2年間で、国保・介護保険の給付が22億円節減されたとされている。人口が違うのであくまで参考だが、医療体制を充実させるという考えから、健康づくりを推進して病院にかかる回数減らしていくという考えにスイッチしてはどうかと思った。

また、地域の子どもと大人、特にお年寄りなど余力がある方の結びつきを増やし、お年寄りは子どもを見守り、子どもはお年寄りを見守る。そして、子どもたちは大人に見守られているという信頼感を育てれば、安全で活力のある街になるのではと思う。

市民が知らない根室の魅力発信のための取り組みについては、道具などを使うのではなく、今ある環境を活かして、幼少期から自然の中で遊び、自然を体感することが一番いいと思う。先ほども春国岱の木道の話がでていたが、何か失いかけているところにお金をかけるよりも、例えば、ガイドが子どもたちを森に連れていき、案内し、危険についても学んでもらったり、離農した土地に木を再生させる取り組みや、荒廃した森林を取り戻す活動など放置された自然を生かしていく取り組みを学校や地域全体で行っていければと思う。

小学校でも地域の自然や産業を学ぶ機会もあるが、もっと身近に感じられるような体験活動をさせるべきではないか。授業では与えられたものをこなすだけで、身になっていないと思う。そのときは理解するが、その後は忘れてしまうことが多いので、学校の授業内外でできるようにすると思う。例えば、冒険クラブを学校外につくり、他校の子と一緒に学べる環境を作ったり、貝の種苗を育てて放流するような取り組みを、年間を通じてやってみたり、酪農体験なども1回の体験

だけではなく、年間通してまたは3年、6年通して携われるものがあればと思う。

根室第三の産業にと言われている観光に市民が積極的に参加できる環境づくりが必要だと思う。先ほどボランティアと言う意見も出たが、ボランティアも大切だが、その前に、根室駅から出て誰に話しかけたらいいのかわからない、どこで何をしたらいいのかわからない状態なので、市民から困っている観光客に声をかけてくれるようになってくれるといいと思う。

外国人バードウォッチャーに英語で案内するお手伝いを、英語を学んでいる中高生にお願いするのはどうか。そうすると自分の話している英語が通用するのかどうか実体験として学ぶことができ、根室市民の語学力向上につながるかもしれない。それが根室の特色になると面白いと思った。観光客に触れ合うことの何が大切かと言うと、観光客が何を求めているのかを知ることによって、根室市の魅力に気づくことができること。子どもの頃からそういったことができる環境があればいいと思う。バードランドフェスティバルが1月にあるが、そこに中高生や地域の方がボランティアとして参加してはどうか。まずは参加してみて、地元ならではの観光の仕方、街の歩き方などを案内するなど、地元の人しか知らない情報などをぜひ伝えてもらいたい。

◎座長

皆さんの意見を集約すると、観光にしても、教育にしても、結局は人の育成という部分につながっているような気がする。こういったところで提言としてまとめるのもいいのでは。

○モニター

それは、10年20年後に結果が出ること。自分はそういう提案でいいと思うが、先ほど意見のあったように、今すぐに結果が出るものじゃなくていいのか。

●総務部長

10年20年後こういう風になってほしいと思えば、今から取り組まなくてはならないこともある。今すぐに行くべき事と将来のことと両方提言してもいいのではないかな。

予定としては、本日の会議で提言についてまとめる予定であったが、一回整理しないと道筋が見えてこないのではないかな。個人としての意見ではなく、市政モニター全体での意見をまとめるべきものだと思う。今のままではまとまらないので、1回多くなるが、事務局でまとめたものを見直して提言書を作ったらどうか。

◎座長

改めて事務局で、本日の意見をまとめて、また再度会議を実施したいと思う。

6. 閉 会